

# 熊本地震 研究会レポート

熊本地震後の2016年7月、学校のトイレ研究会メンバーは県内の避難所を訪問。災害時のトイレについて、避難所管理者の方々から多くのお話を伺ってきました。

熊本市立託麻北小学校  
① 避難所指定あり



上水道 下水道 電気

益城町立広安小学校  
② 避難所指定あり



上水道 下水道 電気

熊本市総合体育館  
③ 避難所指定なし



上水道 下水道 電気

益城町総合体育館  
④ 避難所指定あり



上水道 下水道 電気

宇城市武道館  
⑤ 避難所指定なし

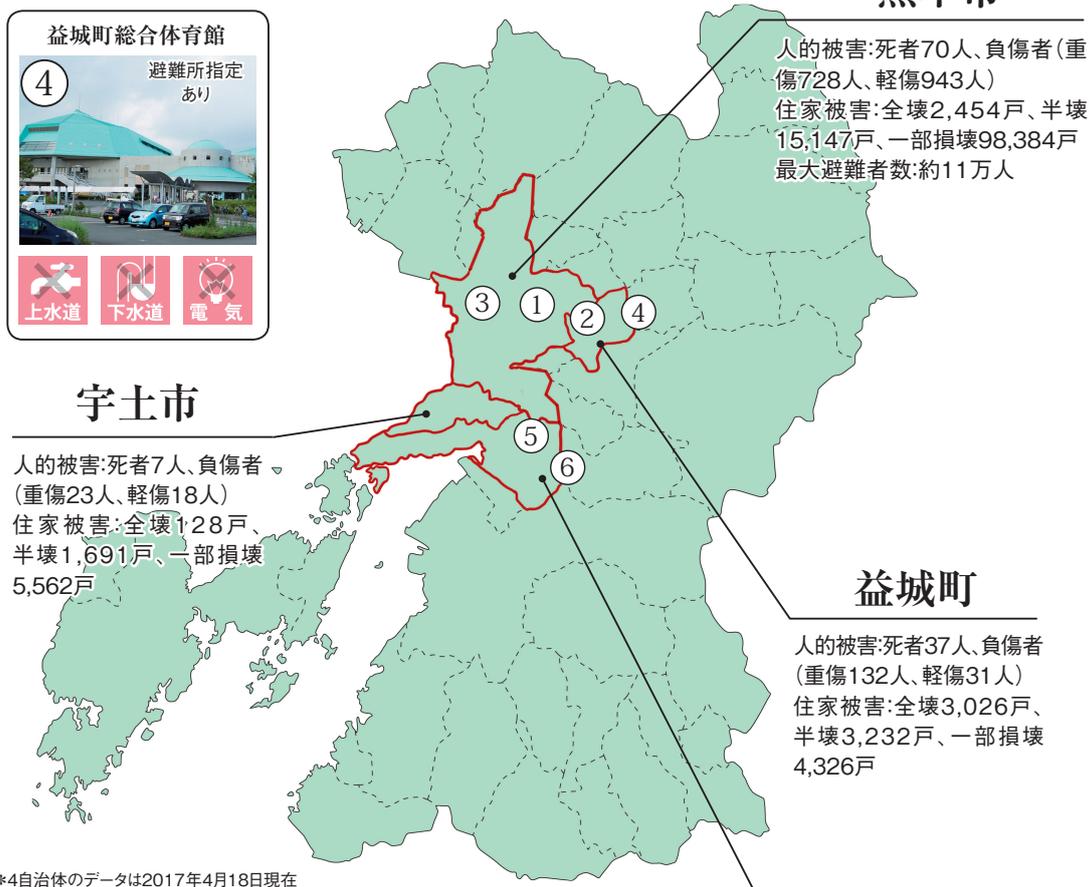


上水道 下水道 電気

希望の里  
サン・アビリティーズ  
⑥ 避難所指定なし



上水道 下水道 電気



## 熊本調査メンバー



7月13日	熊本市	熊本市総合体育館
	宇土市	走湯地区体育館 轟地区トレーニングセンター 緑川地区トレーニングセンター
7月14日	益城町	益城町総合体育館 益城町立津森小学校 益城町立広安小学校 益城町保険福祉センター
	宇城市	宇城市武道館 希望の里サン・アビリティーズ

## 熊本地震による被災地の避難所トイレ実態を探る

熊本地震発生から約3カ月が過ぎた2016年7月、学校のトイレ研究会は熊本県内各地をめぐり、トイレを中心とする避難所の実態調査に伺いました。

避難所の状況は実にまちまちでしたが、実際には指定避難所以外の多くの公共施設や民間施設が避難所となっていることがわかりました。1カ月近く断水が続いた地域もあります。

震災というと、ライフラインが遮断された施設ばかりが目立ちますが、むしろその周辺地域で、ライフラインにダメージはないものの、大勢の避難者受け入れで大変だった施設が多く存在した事実を忘れてはなりません。また、ライフライン復旧後も、長期間の避難生活を余儀なくされ、疲弊している方々の生活を念頭に置く必要があります。

災害避難所となった学校施設や体育館では、いざというときのトイレをどう対処していたのでしょうか。そして、そうした施設の備えとして何が求められているのでしょうか。その真実を探っていきたいと思います。

# 1 熊本市立託麻北小学校



断水で苦労した衛生性の問題  
トイレは何より一番に考えたい

前震直後の4月15日金曜日は、まだ水が出る状態でした。

「バケツやゴミ箱などあらゆるものを器にして、教職員総がかりで学校中の水道から水を集めて体育館へ運びました」と語る橋本須美子校長。



避難所の体育館から離れ、校舎内の奥にある数少ない洋式便器。



「トイレは何よりも一番に考えなくては」と橋本校長。

校舎屋上に水を張ったプールがあるものの、屋上までの外階段が壊れ、プールの水をトイレに使うことができなかつたのです。

そして、水道局の予告通り、本震が来る前に断水となりました。

本震後は、近隣の方600人のほとんどが一気に避難し、トイレは集中利用でにおいや詰まり、悪臭などもあつて、不衛生な状態でした。

週明けの月曜日、教職員全員が真っ先にしたのはトイレ掃除。トイレの重要性を再認識することになり、さらに1Lの水の大切さが身に



簡易洋式を設置したものの、ドアが当たる状態。



体育館男子トイレ。和式便器の老朽化したブースが痛々しい。

染みてわかつたそうです。

学校は基本的に和式便器です。車いすの方やお年寄りの方で和式が使えない方には、校舎倒壊の危険はあつたものの、校舎トイレの奥にある職員用の数少ない洋式トイレを開放して誘導しました。しかし、洋式トイレまでの距離が遠く、多くの高齢者が我慢してしまつた状態が続きました。体育館トイレもすべて和式でしたが、そのうちの1台に簡易洋式をかぶせて洋式化しました。しかし、ドア

が便器に当たつて完全に開かず、プーに入つてから便座に腰かけるまでには一苦労です。それでも全く使えない和式トイレではなく、至近距離に洋式ができて大変助かつたということでした。

「飲料水や食料は比較的すぐに届きます。一番に考えなくてはならないのはトイレです。仮設だと怖がる子どももいます。もし改修できるならば、学校トイレは洋式で明るいトイレにしたいです」(橋本校長)

## 2 益城町立広安小学校



多くの住民の共有スペースは  
トイレのバリアフリー対策を

本震後、教室棟の全てが避難者で埋まりました。車中泊の400名を合わせ、700名以上の方が学校に避難していただくことになります。

プールの水をくんで使っていた既設トイレは、排水管が壊れてからは仮設トイレに移行することに。

高齢者が和式の仮設トイレを使えないため、ビニールパックできるポータブルトイレを各階の多目的トイレと職員室前トイレなど5カ所に設置し

て使用。田中元校長は言います。

「体育館トイレは洋式が一つだけ。しかし、車いすで入る仕様にはなつていません。せめて多くの住民の方が使う共有スペースの既設トイレは、災害を想定したバリアフリー対応が必要だと痛感しました」



「今では普通トイレの洋式率も上がっています」と田中校長。

### 3 熊本市総合体育館

高齢者の多い避難所では  
便器の汚れや詰まりの問題も

熊本市総合体育館は、指定避難所ではありませんでした。

「避難所としての準備はされていませんでしたが、予想もつかない地震で多くの人が集まり、受け入れをすることになったのです」と語るのは、熊本市東区まちづくり推進課の飛鷹靖彦さん。

地震直後はプールの水をバケツリレーで運んだことで、節水の重要性に気づいたそうです。

トイレの数は問題なかったようですが、和式率が70%と高く、高齢者には使いづらく、汚してしまうことや詰まりも多かったとか。「避難所は人が多く、清掃が大変。清掃しやすいのはやはり洋式」と清掃委託業者の方は話してくれました。



「地震のトラウマで家に寝泊りできない方もいます」と飛鷹さん。



手前は談話室。奥がダンボールの居住スペース。



便器の詰まりを防ぐため、おむつ廃棄用の箱も用意していた。



器具数は充実。しかし和式が多い。



洋式率30%

### 4 益城町総合体育館



既設の車いす用トイレ。既設トイレにビニールをかぶせて使う携帯トイレの備蓄がなかったことが問題だった。



車中泊する人たちのために作られた水道設備。



副所長の丸目さんと、衛生担当の野田知裕さん。

掃除が大変な状況だからこそ  
トイレの衛生管理を徹底

被害の大きかった益城町総合体育館。一番の問題だったのが排水管です。下水工事完了までには結局3か月かかったとのこと。

「地震直後から仮設トイレが入りましたが、高齢者は使えないし、洋式が2〜3個で圧倒的に足りません。断水で使用禁止なのにもかかわらず、皆さん施設内のトイレを使おうとされるので、掃除が大変でした。屋内のポータブルトイレは足腰の悪い方に限定し、健康な方は仮設トイレを使ってもらいました」と当時の苦労を語る副所長の丸目陽子さん。

避難者数が最大1500人規模に達したこともあり、ボランティアに加え、衛生担当を置き、ノロウイルスを出さないことを目標に、既設・仮設ともトイレ清掃を徹底していたそうです。



体育館横に併設された仮設トイレと屋外シャワー室。



洋式率50%

## 5 宇城市武道館

簡易洋式やポータブルよりも  
段差のない既設洋式トイレを

台風などの避難所としては隣の公民館が指定されていたものの、地震の避難者が100人を超えたため、広い武道館に移動してきました。この地区は特にライフラインの問題もなく、館内のトイレも通常通り使えたということです。

一部に後から簡易洋式をかぶせたものの、すべて和式便器。ポータブルトイレも後に入りましたが、使い方がわかりにくく、壊れてしまったことも何度かあり、簡易的な対応ではどうしても限界があったようです。

宇城市不知火支所総合窓口課の田代広則さんは語ります。

「トイレは段差がないのがベストです。それと間口が広いこと、そして全洋式がいいのかなと思います」



「古い和式では膝が悪い人への配慮不足」という田代さん。



和式にかぶせる簡易洋式。



ダンボールベッドを使った武道館の避難スペース。



一部洋式便器もある仮設トイレだが、段差がきつい。



洋式率0%

## 6 希望の里

### サン・アビリティーズ

500人の避難者が押し寄せ  
トイレの数が足りない

避難所指定のない体育館施設。建物の老朽化で雨漏りなどはあるものの、水道や電気は問題なしでした。夏場こそおいが気になりますが、震災当初の一番の問題はやはりトイレの数。運動場は車であふれ、トイレの前に行列ができることもしばしばあったようです。

避難所サポートをする宇城市臨時職員の樋口加奈さんは言います。「高齢者の方が多く、トイレはかむより腰かけた方が楽と聞いていま



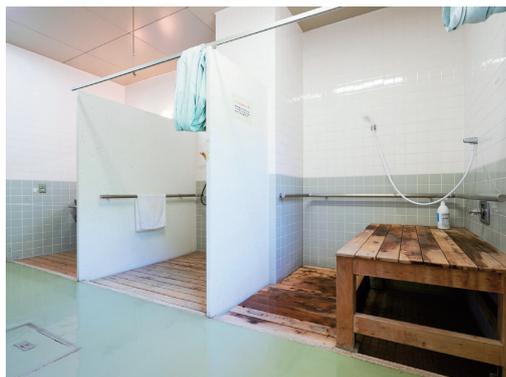
全器具手すり付きの男子トイレ。車いす用は2ブース。



「雨のときや夏場はトイレのにおいが気になる」と樋口さん。



ダンボールで仕切られた居住空間。



体育館だけに、男女別のシャワールームを設置。

すので、トイレをご案内するときは、奥の洋式をおすすめしています」  
田舎のおばあちゃんが心配で熊本にやってきた樋口さん。どんなことでも、避難者の方の話を聞いてあげるのが大切ということでした。



洋式率57%